
レクチャーコンサート報告

ジャン・ジャック・バレ先生

「レクチャーコンサート 室内楽の夕べ

——ジャン・ジャック・バレ先生をお迎えして」

七條めぐみ 愛知県立芸術大学音楽学部非常勤講師（音楽学）

1. 招聘の概要

2019年10月～12月、音楽学コースでジャン・ジャック・バレ先生を短期外国人客員教授としてお招きした。バレ先生は元ジュネーヴ音楽院室内楽科の教授であり、愛知芸大には2017年度から毎年、短期外国人客員教授や集中講義の講師として来学されている。2019年度は学部の音楽史特講c、大学院の特殊研究（音楽学領域3）を中心に、希望学生グループの個人レッスンや楽書講読（仏）など、さまざまな科目に関わっていただいた。本稿ではこれらの授業内容をまとめ、「レクチャーコンサート 室内楽の夕べ」について報告する。

2. 音楽史特講c／特殊研究（音楽学領域3）について

今年度は後期の火曜日3時限目に「音楽史特講c／特殊研究（音楽学領域3）」を開講し、3ヶ月にわたってバレ先生による室内楽のマスタークラスを行った。受講の条件として、学生はある程度定められたテーマ（ドイツ・ロマン派、国民楽派、新ウィーン楽派、フランス近代、現代音楽）に沿って室内楽作品を準備し、バレ先生のレッスンを受けるだけでなく、互いのレッスンを聴き合い、最終的には受講作品に関するレポートを提出した。なお、器楽だけでなく声楽作品での受講も歓迎し、アンサンブルの共演者には受講生以外が含まれていても良いとした。

このような条件のもと、学部生8名（声楽1、ピアノ1、弦楽器4、管楽器2）と大学院生2名（ピアノ1、弦楽器1）の計10名が授業を履修し、6つのアンサンブルが成立した。その内訳は表1（次ページ記載）の通りである。

授業では10月8日～12月3日にかけて、各グループ2回ずつバレ先生のレッスンを受けるとともに、12月10日にはその成果を発表する試演会を行った。

当日は約 50 名が来場し、本学の学生や教員の他に一般からの参加も見られた。アンケートでは、「バレ先生の解説で音楽が 2 倍楽しめた」、「学生、院生、教員、指導者が一体となり、つくりあげられた感動的・熱情いっぱいのコンサート」だったなどの意見が寄せられ、バレ先生による室内楽レッスンの成果をレクチャー付きで楽しんでいただくというコンサートの趣旨は達成できたように思われる。ただ、開催日の決定から当日までの期間が短く、また学内の集中講義期間と重なったことなどから、告知が不十分で集客が思うように伸びなかったことが悔やまれる。今後このような機会にはさまざまな要素を考慮しつつ開催日を早期決定し、学内外での広報に余裕を持って取り組むことが課題である。



図 2. コンサート出演者とバレ先生